

A-1078-3-1

日本國「タイ」國間同盟條約

條約集

第十九輯  
第四十五卷

(589)

外務省條約局

昭和十六年十二月二十九日編纂

REEL No. A-1078

0436

アジア歴史資料センター

極秘

日本陸軍隊ノ「タイ」國通過ニ關スル日本國「タイ」  
國間協定及日本國「タイ」國間同盟條約ニ關スル外務  
大臣説明案

交渉概略

今次開戦ニ際シ在「タイ」坪上大使ハ政府ノ指示セル方針ニ基キ  
マンテ「タイ」レック「タイ」國外相ニ對シ我方要求ヲ申入レ同  
外相及八日朝東部國境ヨリ歸來シ「タイ」首相ト引續キ交渉  
ヲ致シマンシタ結果同日午前坪上大使ト「タイ」レック「タイ」外相トノ間  
ニ日本國軍隊ノ「タイ」國領域通過ニ關スル日本國「タイ」國間  
協定カ署名調印セラレタ「タイ」デアリマス。

我方ノ希望トシテハ出來得レバ軍隊通過ノミナラス攻守同盟ヲ締  
結シ積極的ニ「タイ」國ヲシテ軍事協力のモ承諾セシメタカッ  
タ「タイ」デアリマスガ「タイ」國ニ於テハ「タイ」總督ガ急激ナル  
政策轉換ニ依ル國內ノ動搖ヲ恐レ又日英米戰爭ノ結果ニ付テ充分  
ナル見透シ付カザリシ我方トシテモ目前ノ必要タル軍隊通過ノ許

外務省

(日本標準規格B5)

容ヲ取付ケマンシタ「タイ」國コレヲ満足シタ「タイ」デアリマス。併シ作  
ラ帝國ノ對米英戰爭遂行ニ「タイ」國ヲシテ協力セシムル爲ニハ  
勿論右協定ハ不十分デアリマンシテ「タイ」國ヲシテ軍事協力のミナ  
ラス政治的經濟的ニ帝國ノ政策ニ同調セシメ且東亞新秩序建設ニ  
積極的ニ協力セシムル爲更ニ之ヲ強化スベク努力シ繼ケテ居リマ  
ス中現地外交機關ノ異常ナル努力ハ開戦以來ノ帝國陸海軍ノ雄力  
シキ戰果ト相俟ツテ遂ニ「タイ」首相ヲシテ日「タイ」提携ノ  
必然性ヲ認識セシムルト共ニ米英トノ國交斷絶ヲ辭セザルノ決意  
ヲ固メシムルニ至リ十一日攻守同盟締結ニ付坪上大使ト「タイ」  
首相トノ間ニ意見ノ一致ヲ見タ次第デアリマス。

ソレヨリ直ニ案文ノ交渉ニ入り今般日本國「タイ」國間同盟條約  
ノ案文妥結ニ到達シタ「タイ」デアリマス。

内容ノ説明

(1) 十二月八日ノ協定

外務省

(日本標準規格B5)

日本國軍隊ノ「タイ」國通過ニ關スル日本國「タイ」國間協定ニ於テハ(一)「タイ」國ハ帝國軍隊ノ「タイ」國通過ノ許可、右通過ノ爲必要ナル諸般ノ便宜供與及日「タイ」兩國軍隊衝突回避措置ノ即時實行ヲ約シ(二)之カ實行ノ細目ニ關シテハ兩國軍事官意間ニ協定セラルベキコトカ定メラレ又(三)帝國ハ「タイ」國ノ獨立、主權及名譽ノ尊重ヲ保障シテ居ルノデアリマス。

向本協定ハ前述ノ如キ狀況ニ於テ署名セラレタルモノデアリマシテ事前ニ手紙キテ腹ム違ガナカツタノデアリマス。政府ノ承認ヲ條件トシテ署名イタサセ茲ニソノ御承認ノ手續ツトツタ次第デアリマス。從來ノ例ト異リ協定具ノモノニ一政府ノ承認ヲ條件トシテ一記載シナカツタノハ先方ニ於テ對内關係上不確定ナ體裁ヲ避ケンコトヲ希望シマシタノテ秘密交換公文文中ニ其ノ旨ヲ明ニスルコトトシタノデアリマス。

(四)同盟條約

外務省

(日本標準規格B5)

日本國「タイ」國間同盟條約ハ前文及末文ノ外五條ヨリ成リ秘密了解事項ガ之ニ附屬シテ居リマス。條約前文ニ於テハ今次同盟ノ意義及目的ヲ簡潔ニ述ベ東亞新秩序建設ノ障礙トナル一切ノ禍根ヲ芟除根絶スル決意ヲ以テ本條約ノ締結サレタコトヲ明ニシテ居リマス。

第一條ハ相互ノ獨立及主權尊重ノ基礎ニ於テ日「タイ」間ニ同盟關係ヲ設定スルコトヲ規定シテ居リマス。本條ニ依リ兩國間ニ平時ト戰時ト兩時代ニ亘リ同盟關係ガ確立サレタノデアリマス。

第二條ハ兩國ノ攻守同盟ノ基本關係ヲ明ニシタ條文デアリマシテ、苟モ日「タイ」何レカノ一方ト第三國トノ間ニ武力紛争ガ發生スレバ他方ハ直ニ其ノ同盟國トシテ之ニ味方シ有ラコル政治的、經濟的及軍事的方法ニ依リ之ヲ支援スベキコトガ規定サレテ居リマス。

外務省

(日本標準規格B5)

第三條ハ實施細目ハ兩國ノ權限アル官憲間ニ協議決定セラルベキコトヲ規定シテ居リマス。

第四條ニ單獨不講和ニ關スル條項デ「タイ」國ヲ帝國ト全然對等ニ取扱ヒ且同盟義務ニ忠實ナラントスル誠意ヲ示シタモノデアリマス。

第五條ハ有効期間ニ關スルモノデ本條約ハ十年間有効トシ締約國ハ期間満了前更新ニ關シ協議スベキモノトサレテ居リマス。

祕密了解事項ハ條約ノ實施ニ關スル事項ヲ收メタモノデ第一項ハ帝國ハ「タイ」國ノ失地回復ニ協力スル旨ヲ記シテ居リマス。

第二項ハ帝國ト米英トノ間ニハ既ニ戰爭狀態ガ存在シテ居リマスノデ「タイ」國ハ即時帝國ニ對シ支援ヲ與フベキコトヲ規定シテ居リマスガ之ハ條約第二條ノ適用上當然ノコトデアリマシテ又同條末段協力事項ニ關スル部分モ有ラコル支援ヲ與フベキトアル以上言フ迄モナイコトヲタダ明確ニシテ置カント欲シテ

(日本標準規格B5)

外務省

規定シタノデアリマス。第三項ハ十二月八日ノ協定内容ガ本條約ニ包攝セラレテシマヒマシタノデ之ヲ本條約實施ト同時ニ終了セシメントスルモノデ右協定ハ同盟條約成立迄ノ暫定的ノモノトシ條約調印ト同時ニ之ヲ失効セシメ今後關係文書ノ公表モ爲サザルコトトシタノデアリマス。

結語

以上ヲ以テ十二月八日ノ協定及今回新ニ署名調印セシメントスル同盟條約ニ付テノ大体ノ説明ヲ終ハリマシタ。宣戰御審議ヲ願ヒマス。

(日本標準規格B5)

外務省

極秘

未

日本國軍隊ノ「タイ」國通過ニ關スル日本國「タイ」國間協定及日本國「タイ」國間同盟條約ニ關スル外務大臣説明案

一 交渉経緯

客年八月三十日ノ所謂松岡「アンリー」協定ニ依リ客年九月帝國軍隊ハ佛印北部「トンキン」州ニ進駐致シマシタガ本年七月二十九日佛領印度支那ノ共同防衛ニ關スル日佛議定書締結セラレ帝國軍隊ガ更ニ南部佛印ニモ進駐スルニ及ビ米英兩國ノ帝國ニ對スル經濟的及政治的壓迫ハ愈々骨トナリ一方「タイ」國ニ於ケル兩國ノ暗躍及反日策動ハ益々熾烈トナリ「ビルマ」及「マレー」國境ニ大軍ヲ集結シ以テ「タイ」國ヲ威嚇シツツ之ヲ所謂A B O D陣營ニ引込マント劃策ヲ廻ラシタノデアリマス。斯ル情勢ニアツテ日米交渉ガ繼續セラレタノデアリマスガ右交渉ガ決裂ノ避ケ難キニ至ルヤ對米英戰爭遂行上「タイ」國ヲ軍事

外務省

（日本標準規格B5）

及經濟的ニ我方ニ於テ確保スルコトガ絕對要件ナルコトヲ慮リマシテ對「タイ」施策ニ關シ豫テ政府統帥部間ニ於テハ軍事外交ノ一致セル方針及措置ヲ決定シ之ヲ在「タイ」坪上大使ニ指示シテ置イタノデアリマス。

帝國政府ハ八日午前三時（日本時間以下同ジ）米國政府ニ對シ最後ノ回答ヲ與ヘタノデアリマスガ坪上大使ニ對シテハ其ノ前日七日午後六時「ビブ」首相ト面會ノ上十二時間ノ餘裕ヲ置キ我要求ヲ申入ルベク訓令ヲ發シテ置イタノデアリマス。然ルニ「ビブ」ハ七日朝以來其ノ所在不明ノ爲豫定ノ時刻ニ申入ヲ行フヲ得ズ坪上大使ハ已ムナク「バンコック」ニ殘ツテ居リマシタ「タイ」國政府幹部ト折衝シマシタガ彼等ハ首相不在中決定權ヲ有セスト陳辯スルバカリデ塔ガアカズ其ノ内ニ我軍ハ「タイ」國ノ同意ヲ待タズ行動ヲ開始セザルヲ得ナクナツタノデアリマス。八日午後九時半ニ至リ漸ク「ビブ」首相ガ歸來シマシタノデ坪上大使カ

外務省

（日本標準規格B5）

ラ前日朝以來種々會談方手ヲ盡シタケレドモ空シク我軍ハ既定作  
戰計畫遂行ノ已ムナキニ立至リ行動ヲ開始シタ事情ヲ説明シ其ノ  
了解ヲ求メ我方要求ヲ提出シマシタ處「ビブン」首相ハ之ニ應諾  
シ坪上大使ト「ディレック」外相トノ間ニ日本國軍隊ノ「タイ」  
國領域通過ニ關スル日本國「タイ」國間協定ガ署名調印セラレタ  
ノデアリマス。

我方ノ希望トシテハ出來得レバ軍隊通過ノミナラズ攻守同盟ヲ締  
結シ積極的ニ「タイ」國ヲシテ軍事協力のヲモ承諾セシメタカッ  
タノデアリマスガ「タイ」側ニ於テハ強力ノ前ニ屈シタ感強ク又  
戰爭ノ結果ニ付テモ危惧ヲ抱イタノト我方トシテモ目前ノ必要タ  
ル軍隊通過ノ許容ヲ取付ケマシタノデ一應コレヲ満足シタノデア  
リマス。帝國ノ對米英戰爭遂行ニ「タイ」國ヲシテ協力セシムル  
爲ニハ勿論右協定ハ不十分デアリマシテ「タイ」國ヲシテ軍事  
ノミナラズ政治的經濟的ニ帝國ノ政策ニ同調セシメ且東亞新秩序

外務省

（日本標準規格B5）

建設ニ積極的ニ協力セシムル爲更ニ之ヲ強化スベク努力シ續ケテ  
居リマス中現地外交機關ノ異常ナル努力ハ開戦以來ノ帝國陸海軍  
ノ輝カシキ戦果ト相俟ツテ遂ニ「ビブン」首相ヲシテ日「タイ」  
提携ノ必然性ヲ認識セシムルト共ニ米英トノ國交斷絶ヲ辭セザル  
ノ決意ヲ國メシムルニ至リ十一日午後一時攻守同盟締結ニ付坪上  
大使ト「ビブン」首相トノ間ニ意見ノ一致ヲ見タ次第デアリマス。  
ソレヨリ直ニ案文ノ交渉ニ入り今般日本國「タイ」國間同盟條約  
ノ案文妥結ニ到達シタノデアリマス。

ニ内容ノ説明

(1) 十二月八日ノ協定

日本國軍隊ノ「タイ」國通過ニ關スル日本國「タイ」國間協定  
ニ於テハ(一)「タイ」國ハ帝國軍隊ノ「タイ」國通過ノ許可、右  
通過ノ爲必要ナル諸般ノ便宜供與及日「タイ」兩國軍隊衝突回  
避措置ノ即時實行ヲ約シ(二)之ガ實行ノ細目ニ關シテハ兩國軍事

外務省

（日本標準規格B5）

官憲間ニ協定セラルベキコトガ定メラレ又(三)帝國ハ「タイ」國ノ獨立、主權及名譽ノ尊重ヲ保障シテ居ルノデアリマス。尙本協定ハ前述ノ如キ狀況ニ於テ署名セラレタモノデアリマシテ事前ニ手續キヲ履ム邊ガナカツタノデ已ムヲ得ズ政府ノ承認ヲ條件トシテ署名イタサセ茲ニソノ御承認ノ手續ヲトツタ次第デアリマス。從來ノ例ト異リ協定其ノモノニ「政府ノ承認ヲ條件トシテ」ト記載シナカツタノハ先方ニ於テ對内關係上不確定ナ體裁ヲ避ケンコトヲ希望シマシタノデ祕密交換公文中ニ其ノ旨ヲ明ニスルコトトシタノデアリマス。

(四) 同盟條約

日本國「タイ」國間同盟條約ハ前文及末文ノ外五條ヨリ成リ祕了解事項ガ之ニ附屬シテ居リマス。條約前文ニ於テハ今次同盟ノ意義及目的ヲ簡潔ニ述べ東亞新秩序建設ノ障礙トナル一切ノ禍根ヲ芟除根絶スル決意ヲ以テ本條約ノ締結サレタコトヲ明

外務省

(日本標準規格B5)

ニシテ居リマス。

第一條ハ相互ノ獨立及主權尊重ノ基礎ニ於テ日「タイ」間ニ同盟關係ヲ設定スルコトヲ規定シテ居リマス。本條ニ依リ兩國間ニ平時ト戰時ト兩時代ニ亘リ同盟關係ガ確立サレタノデアリマス。

第二條ハ兩國ノ攻守同盟ノ基本關係ヲ明ニシタ條文デアリマシテ、苟モ日「タイ」何レカノ一方ト第三國トノ間ニ武力紛争ガ發生スレバ他方ハ直ニ其ノ同盟國トシテ之ニ味方シ有ラユル政治的、經濟的及軍事的方法ニ依リ之ヲ支援スベキコトガ規定サレテ居リマス。

第三條ハ實施細目ハ兩國ノ權限アル官憲間ニ協議決定セラルベキコトヲ規定シテ居リマス。

第四條ハ單獨不講和ニ關スル條項デ「タイ」國ヲ帝國ト全然對等ニ取扱ヒ且同盟義務ニ忠實ナラントスル誠意ヲ示シタモノデ

外務省

(日本標準規格B5)

アリマス。  
第五條ハ有効期間ニ關スルモノデ本條約ハ十年間有効トシ締約國ハ期間滿了前更新ニ關シ協議スベキモノトサレテ居リマス。  
祕密了解事項ハ條約ノ實施ニ關スル事項ヲ收メタモノデ第一項ハ帝國ハ「タイ」國ノ失地回復ニ協力スル旨ヲ記シテ居リマス。此處ニ失地トイフノハ主トシテ英國ニ奪ハレタル「ビルマ」及「マレー」ニ於ケル失地ヲ念頭ニ置イテキルノデアリマス。  
第二項ハ帝國ト米英トノ間ニハ既ニ戰爭狀態ガ存在シテ居リマスノデ「タイ」國ハ即時帝國ニ對シ支援ヲ與フベキコトヲ規定シテ居リマスガ之ハ條約第二條ノ適用上當然ノコトデアリマシテ又同條末段協力事項ニ關スル部分モ有ラユル支援ヲ與フベキトアル以上言フ迄モナイコトヲ明瞭ニシテ置カント欲シテ規定シタノデアリマス。第三項ハ十二月八日ノ協定内容ガ本條約ニ包攝セラレテシマヒマシタノデ之ヲ本條約實施ト同時ニ終

外務省

(日本標準規格B5)

了セシメントスルモノデ右協定ハ同盟條約成立迄ノ暫定的ノモノトシ條約調印ト同時ニ之ヲ失効セシメ今後關係文書ノ公表モ爲サザルコトトシタノデアリマス。

三 結 語

以上ヲ以テ十二月八日ノ協定及今回新ニ署名調印セシメントスル同盟條約ニ付テノ大体ノ説明ヲ終ハリマシタ。宜敷御審議ヲ願ヒマス。

省

(日本標準規格B5)



日本國「タイ」國間同盟條約各條文先例調

第一條

一九三〇年英「イラーク」同盟條約第一條

「兩締約國ニハ其ノ親睦、信實ナル了解及良好ナル關係ヲ信條トスル密接ナル同盟設立セラルベク、」

一九三六年英、澳及同盟條約第四條

「締約國ノ間ニ友好、親善及良好ナル關係ヲ鞏固ナラシムルノ目的ヲ以テ同盟ヲ設定ス」

一九三六年佛「シリア」同盟條約第一條

同文

佛「レバノン」同盟條約第一條

「、、、、兩國間ノ友好關係ヲ鞏固ナラシムル爲獨立國家ニシテ且主權ヲ有スル兩國間ニ同盟ヲ設定ス」

外務省

(日本標準規格B5)

第二條

一九三九年五月獨伊友好同盟條約第三條

「、、、、締約國ノ一方ガ他ノ一國又ハ二國以上ノ第三國トノ武力的紛争ニ陥ルニ至リタル場合ニ於テハ他方ノ締約國ハ直ニ右締約國ノ同盟國トシテ之ニ加擔シ且自國ノ陸軍、海軍及空軍ノ全兵力ヲ以テ之ヲ支持スベシ」

一九四〇年日獨伊三國條約第三條

「、、、、更ニ三締約國中ノ何レカノ一國ガ現ニ歐洲戰爭又ハ日支紛争ニ參入シ居ラザル一國ニ依テ攻撃セラレタルトキハ三國ハ有ラユル政治的、經濟的及軍事的方法ニ依リ相互ニ援助スベキコトヲ約ス」

外務省

(日本標準規格B5)

第四條  
一 獨伊友好同盟條約第五條ト殆ト同文

外務省

（日本標準規格B5）

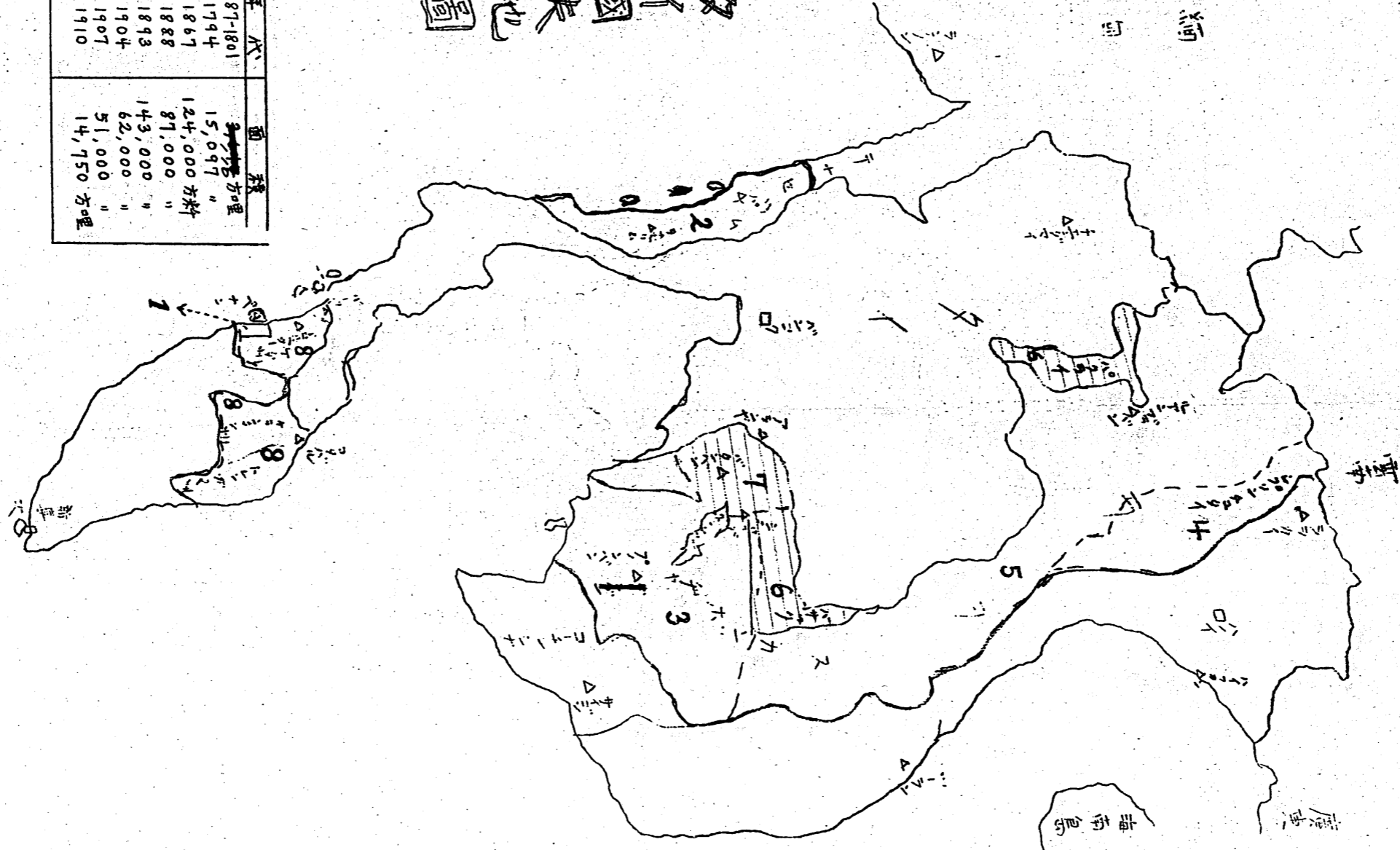
REEL No. A-1078

0445

アジア歴史資料センター

タイ國土地圖

年次	面積
1 1787-1801	3,000 方哩
2 1794	15,097 "
3 1867	124,000 方哩
4 1888	87,000 "
5 1893	143,000 "
6 1904	62,000 "
7 1907	51,000 "
8 1910	14,750 方哩



REEL No. A-1078

0446

アジア歴史資料センター



十二月八日協定

何故協定自体ニ「アド・レフェレンダム」ト記載セズシテ別ニ公文ヲ交換シタルヤ

「タイ」側ニ於テ對内關係上不確定ナル体裁ヲ避ケンコトヲ希望シタルヲ以テ交換公文中ニ其ノ旨ヲ明ニシ之ヲ秘密トスルコトトシタルナリ

外務省

(日本標準規格B5)

同盟條約

「何故」フランス」文ヲ止文トシタルヤ

日「タイ」兩文ヲ以テ止文トスルコトガ最モ望マシキモ電信技術上「タイ」文ヲ用フルニハ困難アリ「タイ」文ハ我方ニ於テハ電報シ得ズ之ヲ用フルトセバ「テキスト」ヲ空路取り寄セ寫眞版ニシテ初メテ國內手續ヲ取り進メ得ベク緊急ノ要ニ合ハザルヲ以テ「ム」ヲ得ズ「フランス」文ノミヲ用フルコトトシタリ

外務省

(日本標準規格B5)

ニ「タイ」國ハ交戦スルヤ否ヤ  
（南洋局ニテ陸、海軍ト連絡シテ答辯振決定ノコト）

外務省

(日本標準規格B5)

何故十二月八日ノ協定ヲ終了セシムルヤ  
秘密了解事項第三項ニ記載サレアル如ク同協定ノ内容ハ全部同盟  
條約ニ収收セラレタルヲ以テ同盟條約成立ト同時ニ獨立ノ存在ヲ  
有スル理由ヲ失ヘバナリ

外務省

(日本標準規格B5)

REEL No. A-1078

0448

アジア歴史資料センター

「失地回復ニ協力スベシ」トアルモ如何ナル失地ヲ作スヤ  
 條約交渉中失地ノ範圍ニ付テハ全然言及セラレザリキ「タイ」國  
 ハ從來佛印、「ビルマ」及「マレー」ニ於テ失地ヲ有スト主張シ  
 居ルモ我方ニ於テハ佛印ニ付テハ（年五月、政府の解及保障三湖を議定するに依り  
 泰、佛、タイ）「タイ」（同境）ニ付テハ佛印ニ付テハ「タイ」（所定、  
 同境）ニ付テハ佛印紛争解決ノ保障圖ト爲リ居ル關係モアリ佛印ハ全  
 然考慮ノ外ニ置キ居レリ「ビルマ」及「マレー」ニ付テモ具体的  
 ニハ何モ決定シ居ラス

(日本標準規格B5)

外務省

其何故坪上大使ト「ビアン」首相トノ間ニ致守同盟締結ヲニ付意見  
 一致セル旨ヲ發表シタルヤ  
 從來「タイ」國內ニハ英米派ノ勢力強ク之ヲ抑フル爲帝國トノ間  
 ニ同盟關係ヲ結ブコトトナレル旨ヲ速ニ發表シ國內人心ヲ安定セ  
 シメント「タイ」側ノ強キ希望アリタルヲ以テナリ

(日本標準規格B5)

外務省

極秘

7.0.0.9-3-1

電信寫

主官 南政 配付先、大、次、總局長、秘書、秘弘、南局長、外  
 昭和二〇 五七四四八一五七 (暗) 盛谷 七月十二日發  
 本省 十四日着  
 東亞大東亞大臣 **要特別注意**  
 第六八八號 (部外秘、大至急、南長符號扱、極秘)  
 日本大使  
 (日「タイ」軍事協定第二次追加協定ニ關スル件)  
 目下當地駐部隊ト「タイ」國防軍トノ間ニ日「タイ」軍事協定ノ  
 第二次追加協定交渉中ニシテ近ク妥結ノ趣ナリ右ハ戰局ノ推移ニ  
 依リ皇軍ノ主要任務力進撃ヨリ保守防衛トナルヘキカ爲ニ從來協  
 定ニハ實情ニ即應セサルモノアルニ至リシニ基クモノニシテ協定  
 ノ主タル要旨左ノ通  
 (1) 「シヤン」州ハ從來「タイ」側ノ單獨防衛ニ委ネアリシヲ自今  
 日「タイ」共同ニテ防衛ニ當ルコトトス  
 (2) 「タイ」緬國境補給ハ日本軍防衛ニ當リ要スレハ「タイ」側之  
 ニ協力ス

東京 四三七

極秘

電信寫

(a) 「シヤン」州ト舊北部「タイ」領トノ國境方面ハ「タイ」側ノ  
 面子ヲ立テル爲「タイ」側ヲシテ防衛ニ當ラシムルモ要スレハ  
 日本側之ニ協力ス (但シ實際上ハ日本側ニテ當ルコトトナル趣  
 ナリ)  
 (b) 緬印國境方面ノ防衛「タイ」國內ノ治安維持並ニ國內輸送力ノ  
 確保及前線ニ對スル補給問題等一並後方任務ハ「タイ」側之ニ  
 當ルモ要スレハ日本側之ニ協力ス (尤モ一部鐵道ノ日本軍ニ依  
 ル草營ノ如キハ別ニ取極ムルモノトス)  
 (c) 「タイ」國內重要地帯 (現在實際問題トシテ盛谷ヲ豫定ス)ノ  
 防衛ハ日「タイ」軍共同ニテ當ル  
 (d) 本協定ハ秘密協定トシ將來トモ發表スルコトナシ  
 尙本件追加協定ハ軍事上必妥適切ノ措置タルト共ニ緊次報告ノ第  
 五列ノ策動ナルモノト流言蜚語ニ依ル日「タイ」南軍間ノ疑心暗  
 鬼ヲ解消セシムル爲ニハ南軍當局間ニ常ニ忌憚ナキ意思疏通ヲ圖

東京 四三七

大東亞省

大東亞省

極秘

電信寫

大東亞省

ル要アリトノ語ヨリスルモ極宜ノ措置ト思考シ后リ新クテ萬一敵  
 兵力侵入等ノ場合ニ出來待ル限リ日「タイ」兩軍協力シテ又若シ  
 「タイ」側ノ熱意之シキカ如キ場合ニハ日本側軍備ニテモ「タイ」  
 側ノ誤解ヲ招クコトナクシテ充分ナル防衛措置ヲ講シ待ルコトト  
 ナルヘシ

一 各方面ノ戰局緊迫化ニ伴ヒ諸國駐屯ノ我方兵力ハ急遽ニ増強セラ  
 レツンアルカ（緋線下ノ杯集團（軍司令官片村四八甲將參謀長吉  
 田權八少將）ハ義部隊ノ線下ニ入ルカトナレリ）之カ爲當地義部  
 隊ハ近ク方面軍ニ昇格スルコトトナリ差當リ中村中將カ司令官花  
 矢忠中將カ參謀長坂參謀長濱田中將カ副長トナリ大使館附武官ニ  
 （脱）セル懸ナリ御參考迄

外務大臣へ轉報アリタシ

東京 四三七



極秘

南政

主管、政 配付先、大、次、局長、外  
昭和二〇 五七八四三二四 暗 盤谷 七月二十六日發  
五七八二七一八 本省 二十六日着

特別注意

山本大使

東郷大東亞大臣  
第七四七號(大至急、詣長符、軍機密)

(對「タイ」指直ニ請スル件)

往電第七三八號ニ附シ

一、日「タイ」共同作戰第二追加協定ハ二十一日日「タイ」兩國軍  
最高指揮官間ニ締結セラレタリ尙協定内容ハ大體既龍ノ通ナルカ  
唯「敵ト交戦又ハ胸按スル兩國軍隊ハ相互ニ等前ニ通告スルコト  
ナクシテ兵力ヲ撤退又ハ減少スルコトナキ」旨ノ一項ヲ設ケラレ  
タリ

二、東北「タイ」及北「タイ」方面ニ敵側ノ秘密飛行場相繼建設セ  
ラレアル嫌疑極メテ濃厚トナレルヲ以テ日「タイ」兩軍ノ共同調

電信寫

東京 四三七

大東亞省

極秘

蓋テ豹フコトトナレリ軍側ノ意見ニ依レハ或ル地方ニテハ郡長等  
ノ地方官憲カ手先トナリ古刀ヲ使用シテ山林ノ伐採及飛行場建設  
ニ當リ居ル疑ヒアル趣ナリ又飛行場ノ存在確認セラレタル場合ハ  
最寄地駐屯ノ皇軍ヲ派遣スルヤモ知レス其ノ結果若シ敵兵既ニ飛  
行場ニ在ラハ交戦トナルヤモ知レストノコトナリ  
外務大臣へ轉報アリタシ

大東亞省

電信寫

東京 四三七

極秘

主官、政 配布先、大、次、編局長、外  
昭和二〇 五八〇五三一 晴 盛谷 八月三日發  
五八〇五七 本省 三日着  
五八〇七九  
五八〇八一九一

政務

東郷大東亞大臣

要特別注意

山本大使

第七七八號(大至急、詔使符號被、軍事機密扱、極秘)  
(敵性策動根絶ニ關スル協定締結ニ關スル件)

「ブケット」島上陸企圖等ニ對スルニ當國周邊竝ニ當國目體ニ對スル敵進攻作戦ノ可能任増大セルニ鑑ミ當國ニ於ケル敵進攻作戦ニ必ス先行スル宣傳謀略工作ヲ拘殺根絶スル目的ヲ以テ當國軍當局トノ間ニ左記要旨ニテ軍事協定ノ細目取極トシテ「タイ」國內ニ於ケル敵性策動根絶ニ關スル協定一ヲ締結スルコトトナリ目下交渉中ナリ  
尙軍側トシテハ「タイ」國軍隊及警察ノ一部カ政府ノ意思ニ反シ萬

電信寫

東京 四三七

大東亞省

極秘

一 通敵行為ニ出テ事重大ニシテ我方ニ於テ自衛上凶ムテク一部部隊ニ對シ強力措置ニ出アサルヲ待サルカ如キ場合ニモ石ハ本協定ニ基テ當然ノ行為トシテ「タイ」國軍隊又ハ警察ヲ拘殺トスル武力處理ニ非ラサルコトヲ「タイ」側ヲシテ締得セシムル上ニハ效果アルヘシト考ヘ居リ事實本協定ノ適用宜シキヲ得ル場合ハ敵性活動ヲ未然ニ拘殺シ得テ大規模ノ武力處理ヲ必要トスルカ如キ事慮發生ヲ防止シ得ルコトトナルヘシ事慮進迫ノ今日機宜ノ措置ト認メラル

記

一 主ナル敵性策動ト認メ根絶スヘキ事項

(1) 秘密飛行場設定使用及附近住民ニ對スル懷柔工作之阻害ノ日「

タイ」共同輸送ノ結果「サコンナコーン」及「ラーヘン」附近

ニ數箇所確認セラレタルヲ以テ近ク日「タイ」共同ニテ又ハ我

方ノミニテ之ヲ破壞スルコトトナルヘシ絶對極秘ニ願度

(2) 通信長ノ他ニ依ル敵トノ秘密連絡

東京 四三七

大東亞省

電信寫

極秘

大東亞省

電信寫

- (3) 敵國軍人敵性諜者ノ侵入及諜報謀略活動
- (4) 敵性宣傳
- (5) 右ノ外兩國軍ノ作戦ニ對スル妨害行為
- ニ敵性策動ニ關スル情報及探査上必要ナル資料ノ相互交換及必要ニ應シ共同調査
- 三 相互諒解ノ下ニ共同又ハ單獨ニ敵性策動封殺
- 四 「タイ」國領内ニテ捕獲セル敵國軍人諜者及國策物等ノ歸屬取調等ニ關スル規定
- (1) 獲得セル軍ノ權内ニ入ルモノトス但シ空中ヨリ降下セルモノハ地域主權ニ依ルコト
- 捕獲直後ノ取調ヲ行ヒ且速ニ共同調査ヲ行クコト
- (2) 日本（「タイ」）國籍ヲ存スル敵性諜者ニシテ「タイ」（日本）軍ノ手ニ入りタル者ハ取調等終了後原則トシテ兵ノ所屬國籍軍ニ移設スルコト

東京 四三七

極秘

大東亞省

電信寫

尙敵國俘虜及抑留者並ニ敵國籍ヲ有スル一般ノ敵性策動防止方ニ關シテハ本使ヨリ外務大臣ニ由テ然申入ルルコトトセリ

外務大臣へ轉報アリタシ

東京 四三七

陸

昭和二〇 一九四四 二月 盛谷 九月十一日一九〇〇 條  
本省 十一月二二〇〇 清

山本大藏

重光外務大臣

第一五九號(至急)

日「タイ」同盟條約等廢止方申越ノ件

十一月外務大臣ヨリ公文ヲ以テ別號第一六〇號ノ通同盟條約其ノ他  
ノ諸條約定ノ廢止ニ關シ申越シノ次第アリタルニ付テハ石ニ請スル  
回答派リ切返シ向同趣相成候

(了)

陸

陸

昭和二〇 一九四四 三月 盛谷 九月十一日一九〇〇 條  
本省 十一月二二〇〇 清

山本大藏

重光外務大臣

第一六〇號(至急、別送)

日「タイ」同盟條約等廢止方申越ノ件

I have the honor to inform Your Excellency for the communication to the  
your Government that as the pact of alliance between Japan and Siam signed  
at Bangkok on the 1st December B.E. 2464 is incompatible with the world  
conditions of peace, His Majesty's Government deem the said pact to be  
terminated and that the same applies to all treaties and agreements

電信寫

accessory thereto, including, in particular, the memorandum of agreement for the settlement of all payments between Japan and Siam by means of the special Yen, the cultural agreement signed at Tokyo on the 20th October B.C. 2485 and the treaty concerning the four Malay states and the states of Kengtung and of Mong Pan signed at Bangkok on the 20th August B.C. 2485.  
Trusting that the Japanese Government will be able to have the same understanding in this matter, etc.

局長

次官

條約局長

才理長

事務局長

政務局長

政務局長

才理長

才理長

日秦同盟條約締結了に伴う措置要領

昭二十九年九月十四

對秦回答

秦側ノ本件條約締結了通告ニ對シテハ速カニ在

秦大使ヲシテ帝國政府ニ於テ之ヲ諒承セル旨回

答セルハモトス。(回答案別紙ノ通)

非公式

右回答發出前杞密院側ニ對シテ説明ノ上其ノ

諒解ヲ求ムルモトス。(條約局長當)

公債案一

外務省

日本標準規格

二條約廢止ニ伴う善後措置

一、文化協定ノ終了ニ伴う日秦文化會館等ノ施設

人員ノ処理ニ付適當ノ善後策ヲ講ズルモトス

トス。(管理局担当)

二、日秦通貨協定ノ終了ニ伴う通貨為替上ノ

善後措置ニ付至急關係省ト協議ノ上現地

ニ指令ヲ与フルモトス。(管理局担当)

三、本件発表振

公債案一

外務省

日本標準規格

外務省  
一  
一

本件発表に付、政府、外務省の情報の発表形式  
ヲ探る、外務省より直達記事資料ヲ以テ記事  
ニテ掲載せらるモノトス  
及先般、時期ハ前記一、對本回答及答本ト同時トス  
(政府の担当)

公  
信  
案  
一

外  
務  
省

(日本郵政省)

REEL No. A-1078

0458

アジア歴史資料センター



21st 1/1

In the letter dated on the 11th September, 1945,  
Your Excellency was good enough to inform me, for the  
communication to my Government that, as the Pact of Alliance  
between Japan and Siam signed at Bangkok on the 21st December  
B.E. 2484 <sup>was</sup> incompatible with the world conditions of peace,  
~~His Majesty's~~ <sup>the</sup> ~~Government~~ <sup>(of Siam)</sup> ~~deem~~ <sup>ed</sup> the said Pact to be terminated  
and that the same applied to all treaties and agreements  
accessory thereto, including, in particular, the Memorandum  
of Agreement for the settlement of all payments between  
Japan and Siam by means of the special Yen, the Cultural  
Agreement signed at Tokyo on the 28th October B.E. 2485 and  
the Treaty concerning the four Malay States and the States of  
Kengtung and of Mong Pan signed at Bangkok on the 20th August  
B.E. 2486.

(under instruction of my Government)  
I have the honour to inform Your Excellency that the  
Japanese Government have taken note of the above communication  
and that they understand <sup>that</sup> the said Pact, Treaties and Agreements  
have been terminated as the result of the above communication.  
I avail myself etc.

REEL No. A-1078

0459

アジア歴史資料センター



五月二十六日 本谷 五月二十六日 本谷  
五月十九日 本谷 五月十九日 本谷  
出外務大臣 通譯 外務大臣

On the 11th instant, the Siamese Minister of Foreign Affairs informed the Japanese Ambassador at Bangkok that His Majesty's Government deemed to be terminated as being incompatible with the world conditions of peace the pact of alliance between Japan and Siam signed at Bangkok on the 11th December B. E. 2484 and all treaties and agreements necessary thereto including in particular the memorandum of agreement for the settlement of all payments between Japan and Siam by means of the special Yen the Cultural Agreement signed at Tokio on the 29th October B. E. 2485 and the treaty concerning the four Malay States and the States of Kelantan and of Negri Sembilan signed at Bangkok on the 20th August B. E. 2486. His Majesty has the honour to inform Your Excellency that His Majesty's Government deem

電信

to be terminated for the same reason the treaty between Japan and Siam concerning the continuance of friendly relations and the mutual respect of each others territorial integrity signed at Tokio on the 12th June B. E. 2485 and the protocol between Japan and Siam concerning the guarantee and political understanding signed at Tokio on the 9th May B. E. 2484 as well as all existing agreements of a political nature.

M. R. Seni Pramoj,

Siamese Minister of Foreign Affairs.

1474

日英同盟條約

宣傳局

IMT 299

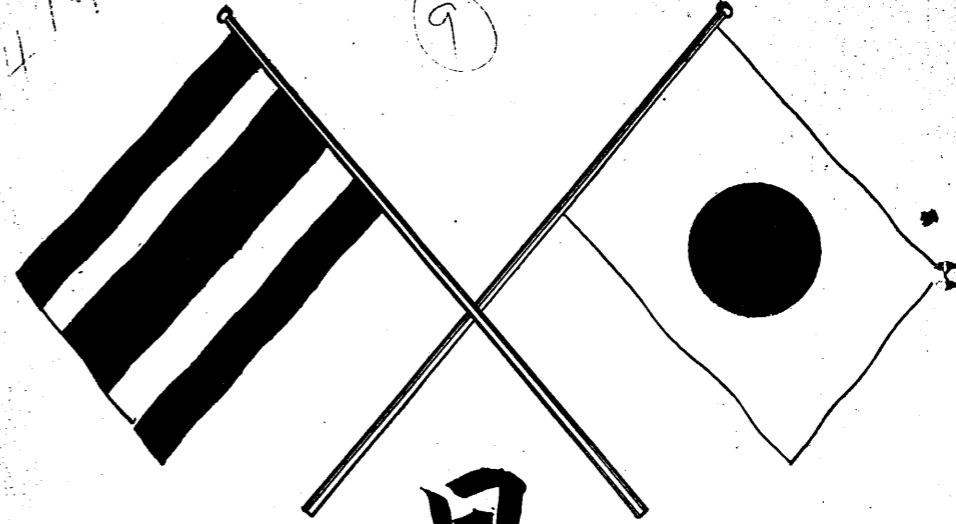
2

A 700-9-3-1

1474

SA 15039  
9

1474



日英同盟條約

宣傳局

IMT 299

1

REEL No. A-1078

046

アジア歴史資料センター

目次

- 一、序言
- 二、告示
  - 日泰攻守同盟條約實施ノ件
- 三、日本國泰國間同盟條約
- 四、政府發表
  - 日泰兩國間攻守同盟條約調印式舉行ニ關スル祝電
- 五、政府發表
  - 日泰兩國首相ノ交換放送挨拶
- 六、日本帝國總理大臣陸軍大將東條英機閣下演說
- 七、泰國總理大臣「ピブソンクラム」閣下答辭

IMT 299

3

1274



下園機英條東將大軍陸臣大現總國帝本日

IMT 299 4

REEL No. A-1078

0463

アジア歴史資料センター

1474

序 言

佛曆二千四百八十四年十二月二十一日調印セラレタル日泰同盟  
條約ヲ紀念スヘク宣傳局ニ於テ日泰兩國總理大臣及日泰兩國外  
務大臣ノ交換祝辭ヲ取纏メ上梓ノ上全國ニ配付スルコト、セリ

宣 傳 局

佛曆二四八四年十二月三十日

IMT 299

5

REEL No. A-1078

0464

アジア歴史資料センター

1074



下關帥元 [ムラタノソノブ] 臣大進總國界

IMT 296

6

REEL No. A-1078

0465

アジア歴史資料センター

告示

日泰攻守同盟條約實施ノ件

泰國陛下ノ勅命ニ依リ左記告示ス

本日本國泰國間同盟條約ハ佛曆二千四百八十四年十二月二十一

日泰國盤谷ニ於テ日泰兩國全權代表ニ依リ署名交換セラレタル

モノニシテ全文五箇條ヨリ成リ署名完了ト同時ニ效力ヲ發生ス

ルモノナリ

IMT 299

7

REEL No. A-1078

0466

アジア歴史資料センター



日本國泰國間同盟條約

大日本帝國政府及泰國政府ハ東亞ニ於ケル新秩序ノ建設カ東亞  
興隆ノ唯一ノ方途ニシテ且ツ世界平和ノ恢復及増進ノ絕對要件  
タルコトヲ確信シ之カ障害トナル一切ノ禍根ヲ芟除根絶スルノ  
確固不動ノ決意ヲ以テ左ノ通り協定セリ

第一條

日本國及泰國ハ相互ノ獨立及主權ノ尊重ノ基礎ニ於テ兩國間ニ  
同盟ヲ設定ス

第二條

日本國又ハ泰國ト一又ハ二以上ノ第三國トノ間ニ武力紛争發生  
スルトキハ泰國又ハ日本國ハ直ニ其ノ同盟國トシテ他方ノ國ニ  
加擔シ有ラユル政治的經濟的軍事的方法ニ依リ之ヲ支援スヘシ

第三條

第二條ノ實施細目ハ日本國及泰國ノ權限アル官憲間ニ協議決定

セラルヘシ

第四條

日本國及泰國ハ共同シテ遂行セラルル戰爭ノ場合ニ於テハ相互  
ノ完全ナル諒解ニ依ルニアラサレハ休戰又ハ講和ヲ爲ササルヘ  
キコトヲ約ス

第五條

本條約ハ署名ト同時ニ實施セラルヘク且十年間有效トス締約國  
ハ右期間滿了前適當ナル時期ニ於テ本條約ノ更新ニ關シ協議ス  
ヘシ

右證據トシテ下名ハ各本國政府ヨリ正當ノ委任ヲ受ケ本條約ニ  
署名調印セリ

昭和十六年十二月二十一日

即チ佛曆二千四百八十四年十二月二十一日



1474

盤谷ニ於テ本書ニ通ラ作製ス

泰國總理大臣兼外務大臣 ビブソンクラーム (署名)

大日本帝國特命全權大使 坪上貞二 (署名)

IMT 299

10

REEL No. A-1078

0468

アジア歴史資料センター

1171



ムラサキサナタラシラフ  
武儀ノ印調約條盟同守政榮日ルケ於ニ院幸

TMT 299

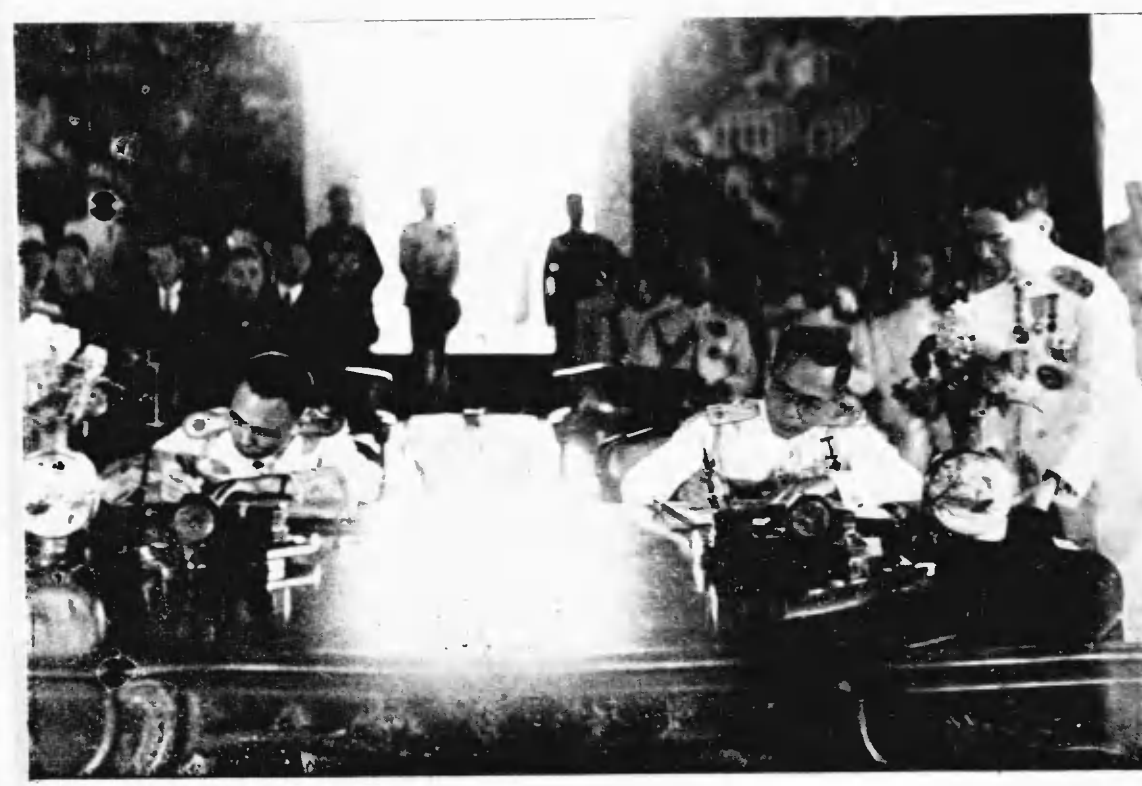
11

REEL No. A-1078

0469

アジア歴史資料センター

1974



日攻守同盟条約調印

INT 299

12

REEL No. A-1078

0470

アジア歴史資料センター

政 府 發

日泰同盟條約調印式ハ佛曆二千四百八十四年十二月二十一日ヲ  
ラシーラタナサーサダーラム寺院内ニ於テ執リ行ナハレタリ  
此日日本帝國總理大臣東條英機大將閣下並外務大臣東郷茂徳閣  
下ヨリ泰國總理大臣「ピブソンクラーム」元帥閣下ニ宛テ夫  
々祝電アリ、「ピブソン」總理大臣ヨリ直チニ兩大臣ニ對シ答電  
ヲ發セルカ右祝電及答電要旨左ノ如シ

日本帝國總理大臣陸軍大將東條英機閣下

祝電

本日盤谷ニ於テ日泰兩國同盟條約締結式ノ舉行セラレタルハ余



ノ欣快ニ堪ヘサル所ナリ本同盟條約ニ依リ泰國ハ日本ト相提携  
シ東亞ヨリ英米兩國ノ勢力ヲ驅逐以テ東亞新秩序並正義確立ノ  
爲邁スルコト、ナリタルカ本條約締結ニ對スル閣下ノ御努力並  
御決斷ニ對シ重ネテ感謝ノ意ヲ表スルモノナリ

電 泰國總理大臣「ビブソンクラーム」元帥閣下答

御懇篤ナル御祝電感謝ニ不堪本朝ノ同盟條約調印式ハ日泰兩國  
代表間ニ於テ極メテ友好且嚴肅裡ニ執行セラレタリ、余ハ本同  
盟條約ハ神聖ナルモノト思考スルカ故ニ本調印式ヲ「ブラシー  
ラタナサーサダーラム」寺院内ノ玉佛像前ニ於テ行ヒタル次  
第ナリ、而シテ本玉佛像ハ泰國人ノミナラス緬甸人及印度人モ

等シク崇拜シ居ルモノニシテ余ハ本條約調印カ此神聖ナル御佛  
 ノ前ニテ行ハレタルカ故ニ必ラスヤ東亞結盟成立ノ近キヲ信ス  
 ルモノナリ  
 我等露國人ハ東亞新秩序建設ノ大事業ニ參加シ得タルヲ至上ノ  
 光榮トスルト共ニ之カ達成ノ爲凡ユル援助ヲナサンコトヲ誓ヒ  
 且此ノ大事業完成ノ日ノ速カナランコトヲ祈ツテ止マヌモノナ  
 リ。

日本帝國外務大臣東郷茂徳閣下祝電

今次ノ日露同盟條約締結ニ依リ日露兩國ハ今後愈相互ニ親密ノ  
 度ヲ高メルニ至リタルカ又之ニ依リ兩國ハ一心同體相携ヘテ戰



場ニ赴キ東亞ノ繁榮ト勢威ヲ招來スルコト、ナレリ、余ハ亞細  
亞人ニ依ル亞細亞恢弘ノ日ノ遠カラサルヲ信スルモノナルカ此  
機會ニ於テ閣下ニ對シ衷心ヨリ感謝ノ意ヲ表スルト共ニ閣下ヲ  
通シ全泰國民ニ余ノ謝意ヲ傳達セラレシコトヲ希望シ且全泰國  
民ノ幸福ト繁榮トヲ庶希シテ止マヌモノナリ。

泰國總理大臣「ピブソ」元帥閣下答電

御祝電感謝ニ不堪余ハ今次日泰兩國同盟條約成立コソハ東亞ニ  
自由ト繁榮ヲ齎スモノナルヲ信ス我等全泰國人ハ日本ノ大義ヲ  
十二分ニ理解之ニ全幅ノ贊意ヲ表スルト共ニ今後日本ト戮力協  
同以テ東亞自由ノ爲一死戰場ニ赴クヲ極メテ欣然トスルモノナ

リ。  
余ハ日本ノ神聖且正義ノ大業成就コソハ日本人ノミナラス全亞  
細亞人ノ上ニ輝シキ成果ヲ招來スルモノナルヲ信シ勝利ノ日ノ  
速カナランコトヲ祈念シテ止マサル次第ナリ。

政 府 發 表

日泰兩國首相ノ交換放送挨拶

日本政府及泰國政府ハ今次同盟條約ニ依リ今後愈戮力シ東亞新  
秩序建設ノ大事業ニ邁進スルコト、ナリタルカ本條約ヲ紀念ス  
ヘク昭和十六年十二月二十六日午後七時日本帝國總理大臣東條  
英機大將閣下並「タイ」國總理大臣「ピブソ」元帥閣下ハ「ラヂオ」ヲ通シ祝意ヲ交換セリ。

日本帝國總理大臣陸軍大將東條閣下演說

余ノ最モ尊敬シ且ツ信頼スル泰國總理大臣閣下並ヒニ泰國民諸君  
 今回日泰攻守同盟締結ニ當リ衷心ヨリ祝意ヲ表ハシ合セテ御挨拶ヲ申シ上クルノ機會ヲ得マシタ事ハ本大臣ノ最モ光榮且欣快トスルトコロテアリマス  
 泰國民カ從來自由獨立ノ氣象ニ富ム事ハ史實ニ徵スルモ明カテアリマスカ殊ニ閣下カ泰國ノ自由ヲ提唱セラレ泰國民ノ精神作興ニ力メラレタル事ハ余ノ常々敬服置ク能ハサリシ所テアリマス然ルニ不幸ニシテ貴國ハ過去一世紀ニ亘リ英國ノ政治的經濟的壓迫ノ對象トナリ之カ爲ニ貴國ノ發展カ阻礙セラレ來ツタ事ニ對シテハ兼々深く御同情申シ上クルト共ニ我々東亞民族ト致シマシテモ等シク遺憾ニ存シテ居タ次第テアリマス

貴國ト我國トハ三百年ノ長キニ互リ傳統的友好關係ニ結ハレ來ツタノテアリマスカ近年兩國ノ親善關係ハ益々緊密トナツテ參リマシタ、即チ昭和十二年十二月ニハ泰國ノ治外法權撤廢ノ全字塔トモ言フヘキ日泰通商航海條約ノ締結ヲ見、昨年六月ニハ友好和親條約成立シ又本年ニ入リマシテハ帝國ノ調停ニ依リ貴國ト佛印間ノ國境紛争カ平和的ニ解決致シマシタノテアリマス  
 之ト並行シマシテ兩國ノ經濟的關係モ近年頓ミニ重要性ヲ加ヘ兩國ノ重要物資ノ交易急激ニ増加シツツアルノテアリマス  
 東亞新秩序ノ建設ハ東亞諸民族ノヒトシク念願スル所テアリマシテ吾々ハ過去十年ニ亘リ之カ爲最大ノ努力ト犠牲トヲ拂ツテ來タノテアリマス然ルニ近年之ヲ防害セントスル米英諸國ノ帝國ニ對スル軍事的經濟的壓迫ハ益々熾烈ニ愈々露骨トナリツイニ帝國ハ敢然ト立ツテ米英擊滅ノ干戈ヲ取ルノヤムナキニ至ツタノテアリマス



東亞千年ノ運命ヲ決スヘキ此ノ重大時局ニ際シ泰國カ閣下ノ一  
 大勇斷ト明智トニ依リ機ヲ失セス帝國ト全面的ニ協力セララル  
 事トナリ此度劃期的日泰攻守同盟ノ締結ヲ見ルニ至ツタ事ハ  
 東亞興隆ノ爲ニ誠ニ欣快ニタヘサル所テアリマスカラ開戦以來  
 帝國陸海軍ハ嚇々タル戰果ヲ擧ケ今ヤ米英ノ東亞ニ於ケル據點  
 香港ハステニ我手中ニアリ「マニラ」新嘉坡ノ陷落自捷ノ間ニ  
 迫マリ大東亞ヨリ英米努力完全ニ驅逐シ東亞共榮圈建設ノ基礎  
 確立ノ日モ又遠シトセル事ヲ確信致シマス  
 希クハ今後益々閣下並貴國官民トノ堤坊ヲ緊密ニシ相協力シテ  
 大東亞建設ノ爲ノ戰爭ノ輝カシキ勝利ニ向ツテ一路邁進致シタ  
 シト存シマス

第テアリマス

終

泰國總理大臣元帥「ビブソンクラム」閣下演説（日本帝國總理大臣陸軍大將東條閣下演説答辭）

私ノ尊敬スル日本帝國總理大臣閣下並ニ日本國民諸兄  
私ハ閣下ノ御言葉ヲ非常ナル喜ヲ以テ傾聴シマシタ、私ハ泰國民ニ  
代リ前述閣下ノ御言葉ハ泰國民ニ深甚ナル感銘ヲ與ヘタコトヲ確信  
スルモノテアリマス、  
私ハ閣下カ泰國民ハ自由及獨立ヲ愛スル氣象ニ富ムト述ヘラレタコ  
トヲ稱揚スルモノテアリマス、私ハ此ノ自由及獨立ハ吾人ノ生命テ  
アツテ之カ喪失ハ國家ノ滅亡ニ他ナラナイト看ルモノテアリマス故  
ニ泰國民ハ攻守同盟條約中日泰兩國カ相互ニ其ノ獨立及主權ヲ尊重  
ストノ條項ヲ規定シ居ルヲ欣フモノテアリマシテ之ハ泰國民ヲシテ  
全力ヲ盡シ日本ト協力セシムル基礎テアリマス  
閣下ハ歴史ヲ引證シテ日泰兩國間ハ過去三百年ニ亘リ友交關係ヲ繼  
續シ來タレルモノナリト述ヘラレタケレトモ正ニ其ノ通りテアツテ

日泰友好史ヲ通觀スルトキハ相互ノ友情及信頼ヲ増進スルニ至ルノ  
テス私ハ斯ク久シキニ亘リ日本ト友好關係ヲ持續シ來タリタル國ハ  
悉ラク世界ニ泰國一國ノミナルヘキヲ附言スルモノテアリマス、如  
何トナレハ日本カ外國人ニ門戸ヲ閉鎖シ長年ニ亘リ外國トノ交通ヲ  
遮斷シタ時代ニ於テスラ日泰兩國ノ交通史ニ依レハ泰國船並ニ泰國  
人ハ日本トノ通商ヲ許可セラレ居リマシタ、是ハ日泰兩國カ特殊的  
友好關係ニ在ルコトヲ示スモノテアリマス泰國ノ歴史ハ日本ノ夫レ  
ト同様テアツテ日本カ過去ニ於テ受ケタルト同様ノ壓迫ヲ受ケテ居  
リマス即チ佛曆二四〇七年英國、和蘭、佛蘭西及米國ノ四ヶ國ノ軍  
艦カ日本ノ下關ヲ砲撃シ強制的ニ日本國ヲシテ三百萬弗ノ償金ヲ支  
拂ハシメマシタカ三十年後即チ佛曆二四三六年佛國軍艦ハ「メナム」  
河ニ侵入シ泰國ヲ強制シテ三百萬鎊ノ償金ヲ支拂ハシメマシタ閣下  
ハ我々兩國カ同様ノ運命ニ遭遇シタコトヲ認メラレルテセウ、又更  
ニ和蘭ハ「アユチャ」王朝時代カラ泰國ニ壓迫ヲ加ヘタモノテアツ

テ一方英國ハ少ナカラサル泰國領土即チ豐饒ナル南部地方、純粹ノ  
 泰民族ノ住居スル「タイ、ヤイ」地方ヲ奪ヒ取ツタテアリマス  
 閣下ハ我々ノ歴史カ外國壓迫ヲ受ケタ點ニ於テ同様テアルコトヲ認  
 メラルヘク是ニヨツテモ我々カ相互ニ同情シ友好親善關係ヲ緊密化  
 ス可キ當然ト言ヘルノテアリマス、今般締結セラレタル本條約ニ依  
 リ日泰兩國軍隊ハ亞細亞ノ榮譽ノ爲協力スルコトトナリマスカ此ノ  
 協力ハ事新ラシイモノテハナク既ニ三百年前日泰兩國軍カ協力シテ  
 戦ツタコトハ史實ノ明カニ示スコロテアリマス  
 泰國民ハ常ニ日本ハ我等ノ良キ友邦テアツテ曾ツテ泰國ヲ壓迫シタ  
 コトモ泰領ヲ奪ヒ取ツタコトモナク却ツテ日本ハ常ニ泰ヲ援助シ曩  
 ニ調停ノ勞ヲトラレ泰ヲシテ舊泰領ノ一部ノ回復ヲ可能ナラシメテ  
 クレマシタ  
 以上ノ事情ニ鑑ミ私ハ國家興亡ノ鬭争ニ於テ日本ト協力生死ヲ共ニ  
 スルコトヲ斷乎決心シタモノテアリマス、私ハ斯ク國家ノ運命ヲ決

定シ益々重大責任ヲ痛感スルモノテアリマスカ同時ニ又私ハ閣下並  
 ニ日本國民ヲ信賴シ歴史ハ從來通りノ軌道ヲ歩ムモノナルコトヲ確  
 信シマス、私ハ日本人ノ崇高ナル道義心ニ滿腔ノ信ヲ置クモノテア  
 リマシテ此ノ際私ノ爲シタル決心ハ正當テアツタコトニツキ確信ヲ  
 持ツモノテアリマス  
 泰國ニ駐屯スル日本軍隊ハ軍規正シク何レノ地ニ於テモ歡迎セラレ  
 居リマス泰國軍隊ハ日本軍隊ト協力シ亞細亞ノ榮譽ノ爲ニ戦フコト  
 ヲ快ンテ居リマス閣下ハ泰國カ印度及緬甸ノ獨立回復ノ中心地ナル  
 コトヲ知ルテアリマセウ、祖國ヲ愛スル印度人並ニ緬甸人ニシテ自  
 由ヲ回復セントスル者多數泰國ニ居住シテ居リマス長年ニ亘タル自  
 由ヲ回復セント努力スルモ未ダ適當ナル機會ニ恵マレナカツタノテ  
 アリマスカ今ヤ其ノ秋カ來マシタ、今日印度人ハ印度自由回復黨ヲ  
 結成センカ爲集會シ明日緬甸人ハ緬甸自由回復黨ヲ結成センカ爲集  
 會スルテセウ泰國ハ是等自由回復黨ニ對シ凡ユル援助ヲ惜シマサル  
 モノテアリマス



泰國カ生死ヲ堵シテ鬪争ニ於テ日本ニ参加スルニ至ツタコト並日本  
 軍隊ノ各方面ニ於ケル勝利トハ亞細亞諸民族ヲ覺醒セシメ白人諸國  
 ノ權力ノ下ニ重壓ニ苦シンテ來タ諸民族ハ等シク自由回復ヲ冀望ス  
 ルニ至リマシタ此情勢ハ私ヲシテ最後ノ勝利ハ必ス亞細亞ノモノナ  
 ルヲ確信セシムルモノデアリマス  
 一方私ハ閣下ニ對シ條約成立及ヒ協力提携カ順調ニ取運ハレ居ルコ  
 トハ坪上大使閣下ヲ始メトシ日本大使館々員並ニ日本軍官民ノ御協  
 カニ依ルモノデアリマシテ殊ニ大使閣下情勢ヲ正確ニ指示セララル  
 ト共ニ泰國官憲ト協力セラレタ賜デアリマス  
 私ハ茲ニ閣下ニ對シ深甚ナル感謝ノ意ヲ表明スルモノデアリマス  
 私ハ閣下カ私並ニ泰國ニ榮譽ヲ附與セラレ友好的態度ヲ示シ且閣下  
 カ今夕貴重ナル時間ヲ割カレ私ト挨拶ヲ交ハサレタコトニ對シ深甚  
 ナル謝意ヲ表明スルモノデアリマス  
 私ハ日本並ニ日本國民ノ繁榮並ニ幸福及日本軍カ全亞細亞ノ爲ニ最

大ノ成果タル勝利ヲ得ラルルコトヲ祈リ併せて閣下ニ衷心ヨリ敬  
 意ヲ表スルモノデアリマス

1474

此本ハ泰國宣傳局ヲ發行ス

กรมโฆษณาการ  
ประเทศไทย

INT 299

28

REEL No. A-1078

0480

アジア歴史資料センター